

式辞

厳しかつた冬の寒さも和らぎ、春の光が大地に満ち、校庭の木々、桜の芽も膨らみ始め、肌をなでる風にも、春の暖かさが感じられる、今日のよき日に、

ご来賓のみな様方のご来賀のもと、

本校第67回卒業式を挙行できますこと、卒業生と共に喜び、感謝申しあげたいと思います。

公私何かとご多用にもかかわりませず、卒業生の祝福に

駆けつけて頂き、新たな旅立ちに華を添えていただきましたこと、御礼申しあげます。

保護者のみな様、お子様のご卒業、おめでとうござります。

3年前、69期生として、住吉中学校の門をくぐられた時は幼かつたお子様が、今、こうして心身ともに、逞しく成長されました。

その姿を目の当たりにされさせぞお喜びのことと存じます。

子どもから大人への「架け橋」ともいえる、多感なこの

時期、お気遣いや、ご苦勞があつたことと、お察し申しあげます。

保護者のみな様には、3年間、本校の教育の推進に、ご支援・ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

お子様の卒業後も、住吉中学校を、温かく見守って頂きりますよう、お願ひ申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。113名の卒業生に卒業証書をお渡しました。

9年間の義務教育を終え、
経済活性化、平和憲法改正、
テロの脅威等々、大きな課題
が山積している日本、そして、
国際社会に向けて、旅立つ日
を迎えることになりました。

君たちは、これから日本
を支える、

大切な宝物です。一つかりと
した、目標を持つて、前に前
にと、進んで欲しいと
願っています。

また、みなさん一人ひとり
の胸中には、

住吉中学校の、三年間の数々の思い出が、
走馬灯のように、駆け巡つて
いることと思ひます。

私は、君たちとは2年間の
付き合いですが、今、君たち
を送り出すことに、感慨深い
ものがあります。

この2年間は、私にとつて
も、素晴らしい出会いがあり、
たくさんのお思い出がありまし
た。

2泊3日、長崎への修学旅
行、
美しい海でのペーロン大会、

夜の聞き取り学習、平和セレモニー。

長崎市内の散策も、思い出の一つになりました。

長崎駅前での、迫力一杯の「蛇踊り」発表には、通りがかりの人が多く足を止め、感動されていました。

体育大会も忘れてはなりません。

体育大会は、集団育成にとつて、大切なものと位置づけています。

3年生の学年演技「組体操」は、見るものに感

動きを与え、胸を張り誇れるものでした。

1・2年のときから集団作りを大切に考え、生徒たちの自主性を尊重し、「生徒が主役」の体育大会を目指し練習をしてまいりました。

その結果、あなた達の演技は、昨年の卒業生に、勝るとも劣らぬ内容でした。

「なかま」を感じられた瞬間ではなかつたでしょうか。

文化祭も、素晴らしい物ができました。

修学旅行でやり残した物を、

総合藝術として、舞台で発表
することができたました。

みんなで協力することの、
大きさがわかつたことと思いま
す。

地道な活動の積み重ねが、伝
統を育み、住吉中学校の「真
のか」となっています。

苦しかった部活動、

夏の暑さ、冬の厳しい寒さ、
しんどくつらい練習に耐え、
大きく成長した

君たちを見ていると、「よく頑
張ったね」と、心の中で、君
たちの頑張りを褒めていまし

た。

みなさんにとっても、今となつては、良い思い出として、残つていいことでしよう。

伝統ある、この住吉中学校、君たちが繋いだものが、誇りとなり、自信となつて、生き続けるよう、在校生と共に、守り育てて行きたいと考えています。

これからも自分たちの、生きていいく街・地域を大切にしてください。

69期生のみなさん、そろ

そう別れの時が来たようですね。
最後にみなさんに1篇の詩
を送りたいと思います。

これから紹介する詩は、私の
好きな童話作家、小泉吉宏（こいづ
みよしひろ）さんの

「一秒の言葉」という詩です。

「はじめまして」

この一秒ほどどの短い言葉に
一生のときめかを感じる
ことがある

「ありがとう」

この一秒ほどどの短い言葉に
人の優しさを知る
ことがある

「がんばつて」

この一秒ほどどの短い言葉で
勇気がよみがえつてくれる

ことがある

「おめでとう」

この一秒ほどどの短い言葉で
しあわせにあふれる
ことがある

「ごめんなさい」

この一秒ほどどの短い言葉に
人の弱さを見る
ことがある

「さようなら」

この一秒ほどどの短い言葉が
一生の別れになる

ことがある

一秒に喜び

一秒に泣く

一生懸命一秒

私たち一人一秒の一つの言葉
で、どれだけのこと伝え
ことができるでしょうか。

一秒に込められた気持ちが
伝わってくるとても素敵で優
しく、私の大好きな詩の一
です。

先生は、集会のたびにあい
さつの話を

してきました。

あいさつの大切さとともに重

要さをみなさんに伝えてきた
つもりです。

また、先生の好きな言葉の
「一瞬懸命」

（一瞬一瞬に一生懸命全力を
尽くす）も
お話したことがあると思いま
す。

いつも使うこれらの日本語
こそ、私たちが亡れてしまつ
た美しい日本語のような気が
します。

言葉は、自分と人とをつな
ぐ大切なものです。

「ありがとうございます」

これほど美しい日本語はない
と思ひます。

「さようなら」「

これほど心に響く日本語はない
と思ひます。

言葉は、人を幸せにしたり
不幸にしたりします。

人を幸せにする言葉をたくさん
使いたいものです。

長くなりました。

新しい世界に旅立つみなが
んと、この佐吉中学校で生活
したこと、ともに汗を流した
こと、そして、「人にやさしい
教育・人にやさしい佐吉中生

を育てる」を、
一緒に学んだことを、「チーム
住吉」を
誇りに思っています。

それでは卒業生のみなさん、
みなさんの青春の思い出一
杯詰まつた、この住吉中学校
を、忘れないでください。

みなさんの未来が、輝かし
く、幸多いことを心より祈念
して、式辞といたします。

2016年3月11日

大阪市立住吉中学校
校長 村瀬香織